

福島県双葉郡教育復興 ビジョン推進協議会 第27回会議資料

令和7年7月3日（木）学び舎ゆめの森
福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校



R6～R7の取組

- 01 探究的な学び
- 02 双葉郡連携の取組
- 03 WWL
- 04 進路と評価
- 05 まとめ





01

探究的な学び

未来創造探究（中：未来創造学）

地域創造と人間生活



総合的な探究の時間



双葉郡ツアー等で現状を学ぶ
課題を**演劇**で表現し理解

1年後期から課題解決型学習
ゼミごとに実践

【高校 1 年前期：地域創造と人間生活】 課題に向き合う(演劇創作)



グループで、町役場、商店、東電等を訪ね、復興に向けて地域が抱えている課題を調査し、その課題を演劇にまとめて表現し、課題を共有する。

○ 分断・対立・葛藤の構図に、第三者として触れる。

→ 相互作用する課題を総体として理解

○ 演じることで状況を想像し、他者の立場に立って捉える。

→ 他者への寛容性、多様な価値観の存在への理解



地域の課題解決に挑む 6ゼミ

原子力災害・伝承探究

共生社会探究

地域社会・経済産業探究

人間科学・文化・芸術探究

自然科学・地球環境探究

スポーツ医・科学探究

8月20日 日曜日開催

前沢の 女宝財踊体験

前沢の女宝財宝踊の方々が目の前で実演後、
皆さんと一緒に踊りを踊ってくださいます。

当日参加
OK



前沢の女宝財踊保存会の方による実演



各役職に合わせ練習



アクセス

地元双葉町に貢献したいと、
双葉町に古くから伝わる「女
宝財踊」（おんな ほうさい
おどり）を、地元の神社で復
活させるイベントをいた。

帰還と移住

開催場

双葉町 駅西住宅 集会場近辺
(8月20日開催)

QRコードから予約お
待ちしております。

※できない場合はメー
ルに氏名と参加希望と
送ってください



ご予約は
こちら

2021110090.futabamiraig
akuen@momo.fcs.ed.jp
双葉未来学園3年 能勢

当日の日程

13:30	開会式
13:35	nameボール
13:45	宝財踊説明
14:00	宝財踊実演
14:15	宝財踊練習 (足) (役割別練習)
14:55	みんなで発表
15:20	閉会式 アンケート集計



常磐線双葉駅

人口減少、過疎化の進む日本社会



町村合併が避けられなくなると...



「わたし」の故郷はどこか？

この問いにこれから
どう向き合っていくのか...？



わたしが創りたい未来

町への愛着や想いという

「目に見えない何か」を地域活性の活力にする

わたしができること

震災前の大熊町の梨を知っている人

➡「梨の思い出」を復活させる

震災後から大熊町を知った人

➡梨を通した「未来の思い出」を創る



令和6年度の取組①



高校2年次生探究月次会(定期的)
2024年6月～



START2024(国際プレゼンテーションコンテスト)
山形県東桜学館中高との連携 2024年7月



ふくしま演劇教育シンポジウム 2024年7月
演劇の取り組み10年の成果発表



イスラエルの学生との交流研修
福島大学との連携 2024年8月



第29回全国中学・高校ディベート選手権
(ディベート甲子園)
中高全国大会出場 2024年8月



新潟県WWL国際会議 参加
代表生徒4名参加 2024年9月

令和6年度の取組②



WWL

東北大学 学問論演習開始

東北大学との連携 2024年10月



探究スタートアップラボ研修

カタリバとの連携 2024年10月



WWL

山形・東桜学館高校中間発表会 参加

代表生徒3名参加 2024年10月



島根県横田高校との探究交流会

島根県横田高校との連携 2024年10月



海外
交流

JENESYS2024 日本・ASEAN
スポーツx SDGs 交流

JICE(日本国際協力センター)との連携 2024年10月



国内
研修

広島研修(10/25-27)

広島国泰寺高校との連携 2024年10月

令和6年度の取組③



WWL

WWLオンライン講演会
シカゴ・デュポール大学宮本ゆき先生来校
事業連携校とハイブリッド開催 2024年11月



データサイエンス講座（1年次・人生）
アクセンチュアとの協働 2024年11月



サイエンスキャスル2024関東大会
外部発表（2年連続の出場） 2024年12月



国内
研修

会津大学の留学生との交流研修
会津大学との連携 2024年12月



海外
研修

ドイツ研修（1/6-15）
環境教育・歴史教育 2024年1月



マイプロ福島県サミット
外部発表（14発表参加） 2025年1月

令和6年度の取組④

NY研修 (UNIS-UN)

高校2年次生11名参加 2025年3月



全国高校生マイプロジェクトアワード2024

全国大会出場(7年連続)

総合司会(本校卒業生6期生)

2025年3月

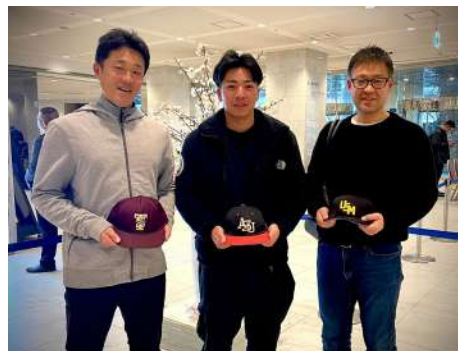
令和6年度の取組⑤～トップアスリート～



バドミントン パリオリンピック出場(富岡高校OB)
保木卓朗・小林優吾選手(男子ダブルス)
渡辺勇大・五十嵐有紗選手(混合ダブルス)
大堀 彩選手(女子シングルス)来校 2024年7



女子サッカー
板村真央選手(8期生)
フェイエノールト入団 2025年1月



野球 吉田誠大さん(2期生)
海外での野球留学終了後
楽天ゴールデンイーグルス就職
(ブルペンキャッチャー)
2025年2月



男子サッカー海外研修
(イギリス・マンチェスター)
2025年2月



レスリング U17世界選手権(ヨルダン・アンマン)
筒井双 選手 準優勝
内山陽誇 選手 第3位 2024年9月

令和7年度の取組～トップアスリート～

女子レスリング U17アジア選手権
2024年6月22日から開催 優勝・3位



第71回福島県高等学校体育大会
男子5名 団体優勝 東北団体2位
島根インターハイへ出場決定



中学校の取組①



リーダー学 (5月20日)
小泉進次郎氏からリーダーについて学ぶ



小泉氏との哲学対話 (5月20日)
この日は特別小泉氏と自己決定について対話



未来創造学発表会 (9月26日)
探究深化のため中学校のみで初の開催



芸術発表会 (11月20日)
今年は合唱以外にミュージカルにも緒戦



イノベ構想体験ツアー (11月29日)
双葉郡にあるFH2RとNARRECにて研修



最後の演劇ワークショップ (1月30日)
海外研修に向けて、体を使った英語劇に挑戦

中学校の取組②



東京グローバルゲートウェイ研修
(中学校1学年 3月14~15日)
楽しみながら英語コミュニケーション



ブリティッシュ・ヒルズ研修
(中学校2学年 3月14~15日)
外国人講師から語学と海外文化学ぶ



ニュージーランド研修
(中学校3学年 3月5日~11日)
英語学習の成果を海外で発揮



BHBI校の生徒受入(5月10日)
ニュージーランド連携校の生徒来校



中学校英語弁論大会(9月13日)
代表生徒が予選優勝・上位大会出場



グローバルスタディ科(12月5日)
自分の探究活動を英語でプレゼン



02

双葉郡連携の取組

2024年8月1日



ふたば生徒会連合第3回ふたばミーティング
2024年7月23日



ふるさと創造学サミット
2024年11月30日

双葉郡小学校絆づくり交流会 運営協力 2024年7月29日



特集1 ふたばのせんぱい

Special Interview!

「とにかくやってみる!」

積極的に



Voice 03

えんどう りょう
遠藤 瞭さん 24

東北大学大学院工学研究科 修士2年

福島県大船町出身。大船町立船町小学校、大船中学校、福島県立ふたば未来学園高校卒業。高校卒業後、新潟大学へ進学し、現在は東北大学大学院に在籍。燃料デブリの分析に関する研究を行っている。2025年3月修了予定



インタビュー
ごさく

大学院ではどんな研究をしていますか?

先日、東京電力福島第一原子力発電所2号機から初めて試験的に燃料デブリの取り出しが行われ、現在、分析が進んでいます。行われる分析には溶液に溶かして分析する方法と固体のまま分析する方法がありますが、私は固体のまま分析する方法の研究をしています。

私が研究を始めた時はまだ取り出しも行われていないので、「模擬燃料デブリ」と言って、燃料デブリはおそらくこんな組成になっているだろうと想定した物質を作りました。それをお試して分析して、より適切な手法・順番の分析フローを考える研究をしています。

何がきっかけで今の研究テーマを選んだのですか?

震災当時は小学校4年生で、震災後、避難しなければいけなくなり、その原因となった原子力発電所に興味を持ちました。中学校のふたばと創造学の授業でふたばについて考える機会があり、まだ中間貯蔵施設ができる前だったので、「中間貯蔵施設って何だろう」、「例でそんなものを作らなきゃいけないだろう」、「あの事故によって出てきた廃棄物ってどんな種類があって、これから出てくる廃棄物のためにどんな処分方法が検討されているだろう」とか、色々な疑問が湧いてきました。

まずは調べ学習をするという感じでしたが、大船町役場の職員

の方が、大船中学校で中学生を対象に、通称だった中間貯蔵施設の説明会を開いてくださいました。その場で、「こういうものができるんですよ」という詳しい説明をしていただきました。そのおかげで、初めて中間貯蔵施設がどのようなものなのかをきちんと知ることができました。

「誰かが受け入れなければならない施設である」という理解もできましたが、「なぜ今でも大船町に受け入れなければならないのか」という気持ちもありました。秘密には私の家は中間貯蔵施設の予定地ではなかったもので、そういう意味では私がそう考えてもいいのかという葛藤はありましたが、最終的には「大船町がそれを受け入れるのは仕方がないことだ」と考えるようになりました。同時に、将来に出てくる燃料デブリも同様の形でどこかで処分をしなければならないということを考えたら、そこに自分も携わるようになりたいという思いが湧き、もっとそのための勉強がしたいと思って進学先を決め、今の研究をしています。



大船の自宅で誕生日!!



大船中学校では吹奏楽部でした

「ふるさと創造学」を通して、どのような力が身についたと思いますか?

今思うと、ふるさと創造学がなければ日常の中で漠然と考えていただけで終わってしまうようなものが、授業の特長の中で考える時間があり、その話を聞いてくれる人がいました。そして、まとめたものを発表する機会もありました。ふるさと創造学があったからこそ、そういった自分の考えをまとめて人に聞いてもらうという経験が、定期的に持つことができたのだと思います。子どもが考えることで、不完全な内容だったとは思いますが、自分の考えをしっかりと語ることが身に付いたかなと思います。

ふたば未来学園高校に進学したいと思った理由はなんですか?

いわき市内の高校が、ふたば未来からの選択だったのですが、ふたば未来を選んだ理由の一つはふるさと創造学です。ふるさと創造学のような探究の授業をふたば未来でもやっていて、自分の考えていることをベースに、先生と協力しながら探究を進めることができると思ったので、ふたば未来に行きたいと思いました。

ふたば未来学園高校にはどんな思い出がありますか?

私が高校生だった当時はまだ校舎が完成しておらず、高校生活の3年間を広野中学校の校舎で過ごしました。会津若松市で私が通っていた大船中学校の校舎はプレハブであり、大船町に建てられていた中学校の校舎には一度も入ったことがありません。そんな私にとって中学校の校舎での生活は特別な意味を持っていました。

色々楽しこともたくさんありました。一番楽しかったのは、海外研修です。1年生ではドイツ、2年生ではアメリカに行きました。学校外の研修でペルーとカリフォルニアにも行きました。それまで海外には一度も行ったことがなかったので、やはり観光する時間が特に楽しかったです。

大学院生活はどんな時に充実感がありますか?

燃料デブリの取り出しは長年延期を繰り返していて、「今年度取り出し予定」という状態がしばらく続いていたんですが、今回やっと試験的な取り出しが実現しました。自分がこれまで研究してきたこと

双葉郡の学校を卒業した子どもたちは、進学したり、就職したり、様々な分野で活躍のフィールドを広げています。
今回は遠藤瞭さんに、双葉郡の学校での思い出、将来の夢についてインタビューしました!

がある程度反映された形で分析が進んでいくだろう、かつ、修士論文として自分がまとめたものが今後も生かされていくだろうと考えると、充実感があります。

こういったインタビューを受けたりすることについて思うことは?

色々な形がありますが、「発信」は当時から積極的にやっていたと考えています。震災後は自分の生活が支障物資で成り立っていることが多く、感謝の気持ちや、自分達が元氣な生活をしている様子をできる限り伝えていくことが必要だと思っていました。

最近は少し少なくなってきていて、もう14年も経つので、廃炉のことも緊急性のある課題ではなくなくなって、そういったことをみんな考えなくなっているように感じます。処理水放出のこともそうですが、その時々で考えた方がいいことがあるはずですが、大船町民でも、福島県民でも、他の地域に住んでいる方でも、みんなが興味関心を向けて考えた方がいいテーマだと思います。ただ、当事者とかされる人にしか言えないこともあるかとは思いますが、発信することでそういう役割も担っていかれたらと思っています。

将来の夢はなんですか?

ずっとデブリ関係のことを考えてきたので、目指すところは、大船町もそうですが、この事故で発生した廃棄物によって悲しい思いをする人が少しでも少なくなるような状況になれるように、自分にできることをやっていきたいです。

双葉郡の後輩にメッセージを!

私の時もそうでしたが、たぶん今でも双葉郡にいる皆さんには、普通の小・中学校にあるものがあったりもするかもしれませんが、この一方で、ちょっと特別な機会があったりと思います。「こんなことやって何になるんだろう」なんて思うこともあると思いますが、そういう時でも積極的に色々な事に手を出して、とにかくやってみるといいんじゃないかなと思います。

自分も全然英語が喋れない状態で、恐る恐る海外研修に行きましたが、本当に楽しい経験をすることができました!

修士1年の海外研修でヨーロッパへ



卒業生(第2期生)インタビューに協力



03

WWL

ワールド・ワイド・コンソーシアム構築支援事業

文部科学省指定:WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業(令和5~7年度)ふたば未来学園拠点校

研究開発構想名	原子力災害からの復興を果たし、新たな社会を創造するグローバル・リーダーの資質・能力の育成	目的	① 本県から東北地区に展開するグローバル人材育成のアドバンスト・ラーニング・ネットワークの形成 ② 探究・海外研修・APを体系的に位置づけたカリキュラム開発 ③ 地域や世界の課題解決に貢献する人材の育成 ④ 「教育」と「創造的復興による持続可能な地域実現」の相乗効果創出
育成人材像	地域や世界の課題と自己の夢とを重ね合わせ、当事者として行動する市民性 立場・価値観の違いによる分断や対立を止揚する協働的ネットワーク構築力 地域の資源を見出し、世界に新たな価値を創造する力		

機構・地域・大学等と協働したグローバル課題解決探究プロジェクト

④「教育」と「創造的復興による持続可能な地域実現」の相乗効果創出

③ 福島国際研究教育機構をはじめ、地域や全国・海外で世界と協働しながら活躍する人材の輩出

高校生国際会議の開催(国連関係者・海外連携校等参加)

事業協働機関

福島国際研究教育機構(F-REI)

- 探究への専門的助言
- 研究者と生徒による協働プロジェクト
- キャリアカフェ

東北大学

- より高度な探究へ向けての専門的助言
- 生徒主催双葉郡FWへの大学留学生の参画
- 大学授業先取り履修と単位認定

早稲田大学

- 探究への専門的助言(リゾナンスジャー常駐)
- 協働での創造的復興探究プロジェクト
- 【ふくしま学(案)会等】

福島大学

- 個に応じた探究へ向けての専門的助言

福島イノベーション・コースト構想推進機構

- 地域課題探究への専門的助言

NPOカタリバ

- カリキュラム共同開発

大学教育の先取りによる高度な学びの実施

- 大学と連携したアドバンストプレイスメントの導入「学問論演習など」(東北大)
- その他文理横断的な高度な学び(東北大・早稲田大学)

福島をフィールドとしたグローバル探究

- 大学連携による文理融合した高度な学問との接続を強化した探究カリキュラムの実践
- 地域課題の取材と演劇を通じて、「創造力」等の資質・能力を強化
- アカデミックライティング等のスキル育成強化

世界をフィールドとしたグローバル探究

- 探究ゼミと連動したプロジェクト型海外研修
- オンライン・対面でのグローバル課題探究授業連携
- 生徒主催の双葉郡FW(東北大、UNIS)
- 外国人指導者等によるグローバル

連携校(海外)

国連本部
Civil Society Unit
世界の課題の最前線に向き合っている国連職員と意見交換、議論を行い福島の課題と世界のつながりを構造的に理解する。

国連国際学校 UNIS(アメリカ)

「持続可能な社会づくり」をテーマに地球規模での課題について世界の同世代と意見交換、議論を行う。差別や対立・分断について米国の現状を学び乗り越える方策を探る。

② 探究を軸としたカリキュラム編成と海外研修・APを体系的に位置づけたカリキュラム開発

原子力防災・伝承探究ゼミ	原子力災害からの復興や廃炉など福島固有の問題を軸にしながら地域社会の在り方を探究する。	共生社会探究ゼミ	地域に暮らす人と人との関係性や、ウェルネス(健康・福祉・医療にとどまらない社会的環境の豊かさ)について探究する。
地域社会・経済産業探究ゼミ	断絶してしまった地域コミュニティの再構築について、生業や農工商業などの産業振興や社会システムの観点から探究する。	人間科学・文化・芸術探究ゼミ	人間の心理・行動の分析や、人間が生み出す芸術・アートを生かした社会のあり方について探究する。
自然科学・地球環境探究ゼミ	研究開発拠点が集中する地域特性を活かし、自然現象の真理や、人間社会と地球環境との関係性を探究する。	スポーツ医・科学探究ゼミ	スポーツ医・科学に基づいたハイパフォーマンスの実現や、トップアスリートの育成における社会環境等について探究する。

事業拠点校:福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校

- 連携校(県内)
- 福島県立福島高等学校
 - 福島県立安積高等学校
 - 福島県立会津高等学校
 - 福島県立会津学鳳中学校・高等学校
 - 福島県立磐城高等学校

- ① 福島アドバンスト・ラーニング・ネットワークの形成
- 構想目的の共有
 - カリキュラム改革(探究カリキュラム強化)
 - 連携大学AP科目履修
 - 教員指導力向上

管理機関
福島県教育委員会

- 宮城県仙台二華中学校・高等学校
- 山形県立東桜学園中学校・高等学校

連携校(県外)

緊密な「横のネットワーク」

WWL事業のロードマップ

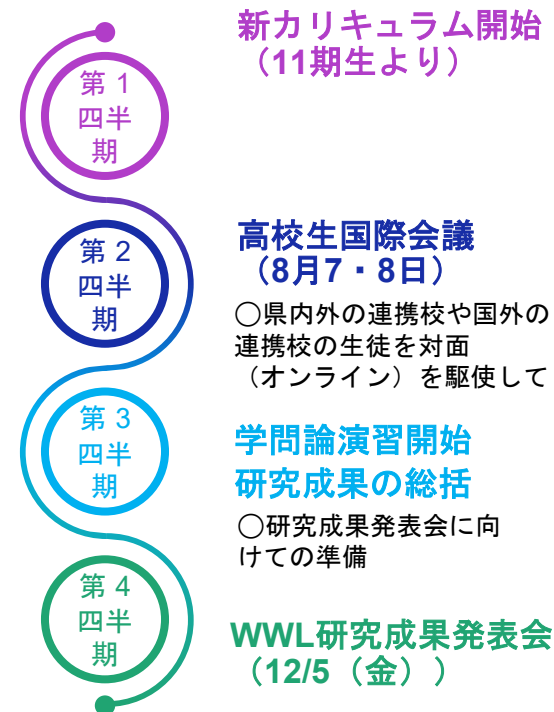
2023年(R5)

2024年(R6)

ふたば未来学園10年目
三島長陵の生徒、帰還

2025年(R7)

10周年行事
3.11 震災から15年



連携校との関係強化

探究的な学びの運用

成果の発表・情報発信

■福島県WWL高校生国際サミットで目指したいこと

全ての参加者にとって
意義ある参加
意義ある学びの場
となること

- 1) 全ての参加者に対するリスペクト
- 2) 平和な心持ちで真摯に対話をする
- 3) 福島を訪れてくれる方へのおもてなしの心

「学びの国際化」
「知識の国際化」
をめざそう

私たちの考えは福島や日本の中だけの理解にとどまっていないか？
私たちの理解は世界に通じるのか？ 世界で理解されるのか？
それを世界の高校生と対話する中で
「学びの国際化」「知識の国際化」をめざそう！

「未来を射程に」
自分たちの社会を創る
社会を次世代に託す

2065年の世界では高校生も徐々に現役世代から次世代に託す世代
となっていく。「2065年までに自分たちができること」「私たち世代で
は解決できないので、次世代に託したいこと」
「世代を超えた普遍的な学び」を今から意識していこう。



12/7 キックオフミーティング
開会式の様子



コミュニケーションWSの様子



グループワークの様子



記念撮影

令和6年度の取組⑥ ふくしまALゼミ



オープニング



コミュニケーションWS



キックオフミーティング

2024年12月



松岡先生(早稲田大)による講演



ゼミ活動

04 進路と評価

祝 令和5年度 卒業証書授与式



進路実績

(1～8期生)

専門学校等

就職・公務員等

大学・短大



○ 大学・短大

北海道大、東北大、福島大、会津大、県立医科大、筑波大
東京大学、東京都立大学、東京学芸大、宇都宮大、
山形大、新潟大学、早稲田大、上智大学、立教大学、
青山学院大、法政大、専修大、日本体育大 等

○ 専門学校等

いわき医療センター看護専、松村看護専、
IWAKIヘアメイク テクアカ浜、福島介護福祉専、
いわきPCカレ、海外留学 等

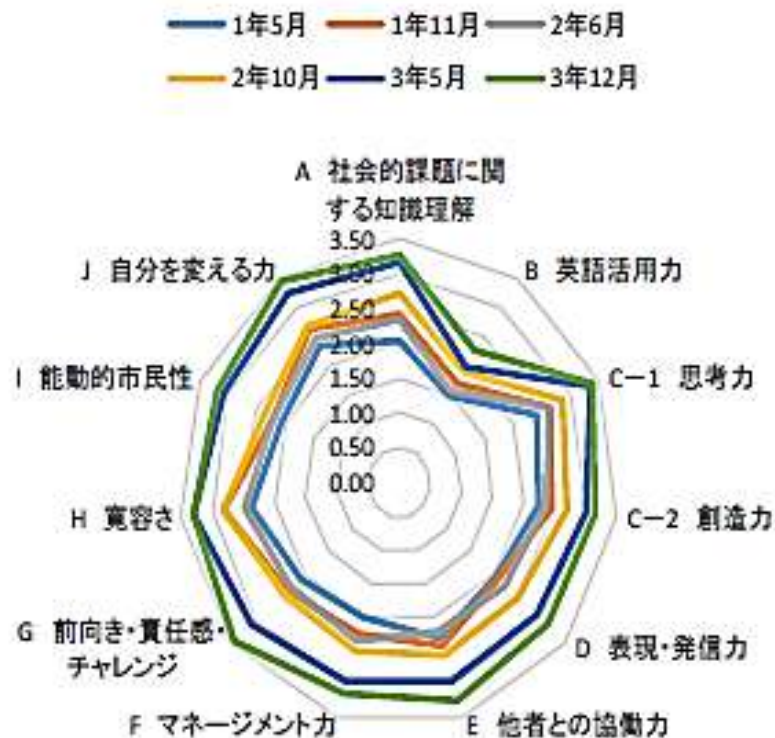
○ 就職・公務員等

トヨタ、日産、JAさくら、イオン、あぶ信金、
日テレ・ベレーザ NTT東日本、ヨネックス、
福島県警、自衛隊、双葉郡水道 等

【高校：事業成果】ルーブリック評価とアンケート調査の結果

ルーブリック評価

生徒は定期的にルーブリックの各資質・能力について自己評価を実施し、自身の成長要因について自己分析。特に地域での探究・実践を通じて大きく成長。

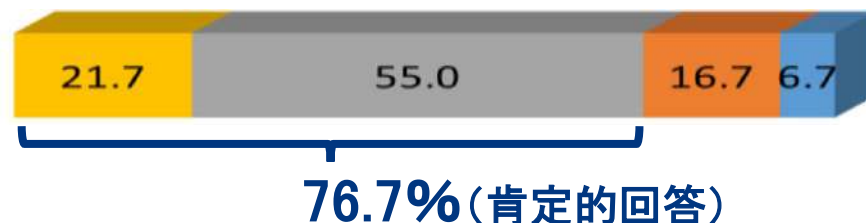


ルーブリック調査(8期生・令和7年3月卒業生平均)

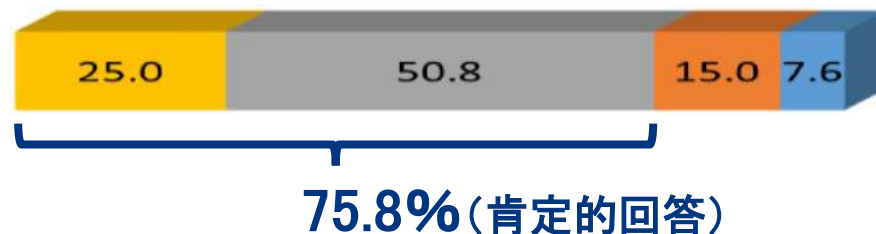
卒業時のアンケート調査

卒業時にアンケート調査を実施。本校の学びを通じて社会や地域とどう関わって生きていくかを見出した生徒が7割超。直接比較はできないが、全国の高校生の平均より社会的関心が高い傾向。

Q1. 社会との関わりを見出せた



Q2. 自分の価値観を考えられた



※8期生(令和7年3月卒業)

比較

日本財団 世界の18歳意識調査の日本の結果 (2021年実施)

自分は責任がある社会の一員だと思う	48.4%
自分の行動で国や社会を変えることができる	26.9%

05

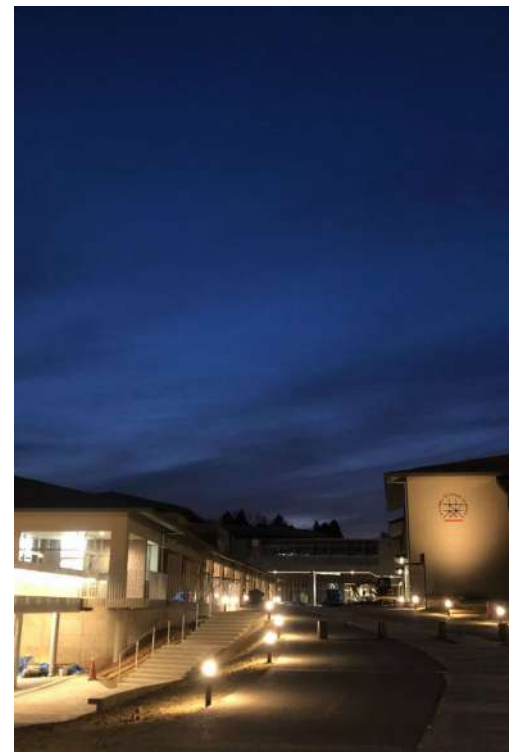
まとめ



開校の経緯・背景 ～ 設置経緯と今後



- 平成23年 3月 東日本大震災・原発事故発生
- 平成24年12月 「福島県双葉郡教育復興に関する協議会」設置
(双葉地区教育長会に加え、福島県、福島大学、文部科学省、復興庁も参画)
- 平成25年 7月 「福島県双葉郡教育復興ビジョン」取りまとめ
※ 県立の中高一貫校の設置が盛り込まれ、県と町村の協議により平成27年に設置することが決定。
※ 協議の過程では、町村は国立又は国立大学附属での設置を要望したが、福島県設置とし、国は財政支援、技術的支援を行うこととなった。
- 12月 中高一貫校に関する検討会(福島県)の設置
(福島県主催、双葉地区教育長会、文部科学省、復興庁も参画)
- 平成26年 6月 中高一貫校に関する検討会構想とりまとめ(教育課程、生徒募集方針等を決定)
- 平成27年 4月 福島県立ふたば未来学園高等学校開校
※ 定員(120名)を超える152名の出願。急遽定員を160名へ拡大するとともに、志願者は受検を経て全員入学。
開校に伴い双葉地区県立高校5校(サテライト校)は募集停止
- 4月 文部科学省から「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」指定
- 6月 平成31年度を目途に併設型中学校を開校することを公表
- 平成 31年4月 福島県立ふたば未来学園中学校開校、本校舎に移転
- 令和 2年4月 文部科学省から「地域との協働による高等学校改革推進事業(グローバル型)」指定
- 令和 3年4月～ JFAアカデミー福島(静岡県内の本校の三島長陵校舎)が福島県に帰還開始
- 令和 4年4月 中高一貫一期生が高校入学
- 令和 5年4月 文部科学省から「WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業」指定
- 令和 6年4月 JFAアカデミー福島帰還完了(三島長陵校舎は3月に終了)
- 令和 7年3月 中高一貫一期生が高校卒業
- 令和 7年10月 開校10周年記念式典



福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校